

# デジタルアーカイブ

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：アーカイブの歴史をたどりながら、記憶とメディアの関係、人類の知的創造物をアーカイブして活用するためのメディアデザインの重要性を理解する。個人のアーカイブ、ミュージアムや国家のアーカイブ、ライフログに至るまで、アーカイブの具体例を参照しながら、アーカイブとデジタルメディアとの出会いが、人間の記憶の営みをどのように変容・加速させるかを考える。記録をストックして整理し、そこから新たな発見やアイデアを引出し、後に続く営みへとつなぐことの重要性を理解し、演習を通じてデジタルアーカイブのデザイン手法を身に付ける。

■**到達目標**：①デジタルアーカイブの社会的意義、計画・制作・運用の基本的手法と手順を理解する。  
②デジタルアーカイブが生み出す効果や価値に対する明確なビジョンとともに、小規模なデジタルアーカイブの提案と制作を行なうことができる。

■**担当教員**：

須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション：アーカイブとは何か？
- 第2回 アーカイブの起源と記憶の秘密
- 第3回 記憶の表象・ムンダネウム
- 第4回 デジタルの登場とアーカイブ
- 第5回 事例考察1 - ミュージアムや国家のアーカイブ
- 第6回 事例考察2 - インターネット時代のアーカイブ
- 第7回 事例考察3 - 芸術と記憶をめぐる
- 第8回 デジタルアーカイブの仕組み- 記録層/管理層/プレゼンテーション層
- 第9回 演習（課題説明／対象設定）
- 第10回 演習（調査／計画／デザイン）
- 第11回 中間発表
- 第12回 演習（記録）
- 第13回 演習（制作）
- 第14回 演習（制作）
- 第15回 最終プレゼンテーション

■**教科書**：必要に応じて資料を配布します。

■**参考文献**：記憶—「創造」と「想起」の力（1996, 港千尋, 講談社）  
記憶のゆくたて—デジタル・アーカイブの文化経済（2003, 武邑光裕著 東京大学出版会）  
ニューメディアの言語—— デジタル時代のアート、デザイン、映画（2013, 堀潤之訳、レフ・マノヴィッチ みすず書房）

■**成績評価基準と方法**：講義に関しては、小テストで評価します。演習に関しては、演習の成果物・発表で評価します。単位修得には6割以上の得点と10回以上の出席が必要です。演習課題内容は授業中に発表します。

評価方法	到達目標		評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	
小テスト	◎		40%
発表	○	◎	50%
出席			10%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

※小テスト（第3～10回の計8回）

■**関連科目**：創造産業論、情報社会論、博物館概論、博物館情報論、インターネットメディアデザイン、メディア芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：